

同志社大学

2015 年度 卒業論文

社会的自我の発達によるキャリア像の変化
—海外滞在中の手記をもちいたコレスポンドンス分析をもとに

社会学部社会学科
学籍番号： 19101049
氏名：酒井 かえで
指導教員：立木 茂雄

(本文総文字数：22,721)

要旨

社会的自我の発達によるキャリア像の変化 ー海外滞在中の手記をもちいたコレスポネンス分析をもとに

学籍番号：19101049

氏名：酒井 かえで

われわれの自我は、いかにして形成されるのか。いつの時代も普遍的なこの問いに対し、社会学者の **George Herbert Mead** は社会的自我論を用いて、以下のように説く。「自我は、生誕のときからそこにあるのではなく、社会的経験と活動の過程のなかに生じるもの、すなわち、全体としての過程にたいする、およびその過程のなかの他の諸個人にたいする所与の個人の結果として、彼のなかで発展するものなのである」(G.H. Mead 1995:192)

われわれは、日々変化する社会やコミュニティに接して生きているが、はたしてその変容はいかに個人の自我形成に影響を与えているのだろうか。今回は、筆者自身が海外留学行っていたときの日記ログを参照し、社会との関わりのなかでいかにして社会的自我を形成しているかに注目したい。留学滞在中をイギリス留学期・オランダ短期滞在期・ヨーロッパバックパック期の3つのフェーズに分類し、それぞれの頻出単語の変化を追い、個人が接する社会の変容と自我の形成の相関関係について考察する。さらに、そうして生まれた社会的自我が個人のキャリア像の形成にいかに影響するかについても掘り下げたいと思う。

キーワード：社会的自我論、アイデンティティ、キャリア像

目次

1. はじめに
2. 先行研究
 - 2.1 自我とは何者か
 - 2.2 自我とアイデンティティ
 - 2.3 『一般化された他者』の態度取得
 - 2.4 社会的自我の構築
3. 研究方法
 - 3.1 対象
 - 3.2 滞在期間のフェーズ分類とその概要
 - 3.3 方法
 - 3.4 調査項目・カテゴリ
 - 3.5 分析手法
4. 分析結果と考察
 - 4.1 各フェーズにおけるログデータのクロス分析結果と考察
 - 4.2 ログデータのレスポンス分析結果とキャリア像形成に関する考察
5. おわりに
 - 5.1 まとめと今後の課題

参考文献

1. はじめに

「自分とは一体何者なのだろう」。この世に生を受けたものであれば、誰でも一度は頭に浮かぶ疑問ではないだろうか。巷では、就職活動を目前に控えた大学生たちが、紙に向かい、まるで脅迫されたかのように必死に「自己分析」をしている様子が窺える。他方では、「一度はこの目で広い世界を見てみたいのだ」と、希望を胸にアジアへとまだ見ぬ「自分探し」の旅に出る者もいる。それぞれ別の道を歩むとはいえど、われわれの自我にたいする興味と好奇心は底知れぬもので、これはいつの時代も変わらないだろう。このように、自我にたいするわれわれの関心は衰えることを知らないが、はたして自我という言葉が昨今あまりにも容易に用いられていないだろうか、と危惧せずにはいられない。

また、そう述べつつも、自我の形成に関心をもつ者の一人として筆者自身も例外ではない。私が何者であるかという問いは、そう簡単に答えが見つかるものではなく、物心ついた頃から自身にそう問い続けてきたように思う。筆者は、大学4年次である2013年3月から海外へ留学することに決めた。周りが就職活動に向けての準備を着々とすすめるなか、そのように決めた理由は主に二つあって、どちらも職業選択にかかわるものだ。一つめは、就職する前に自分が好きでやっていた英語をある程度極めたいということと、二つめは、仕事という人生のなかでもっとも時間を割くことになるであろう職業を決めるにあたり、忙しく過ごしていた日本から一度離れて、何がしたいのかと自身に問いかけることで、より納得できる選択をしたいと思ったからだ。留学を経て、感覚的には出発前の自分とくらべて変化したことは実感しているものの、はたしてそれが真実なのかはあまりにも抽象的すぎて答えはなかなか出てこない。

さらに、筆者は海外滞在中にそれこそ多様な体験をしたが、はたしてそれらがまったく同じ自我を生み出したかと言われると、そうではなさそうだと考えるようになった。というのも、人生という大きな枠で考えるとあまりに短い期間ではあるものの、出発してすぐに自我が確立したというわけではなく、海外滞在中はそれが、あらゆる形に姿を変えてまるで水のように有機的に変遷していくように感じていた。イギリスにいたとき、オランダにいたとき、ヨーロッパを周っていたとき・・・それぞれの土地で体験したことはすべて違い、関わる人たちもまた多種多様であった。また、それと同じように、自身の頭で考える意見や思想、それに伴って発言や行動なども変わったように思う。そうすると、自我とは、ある時点で一気に180°C入れ替わるようなものではなく、あらゆる変化を遂げて、絶えず進化しつづけているのだろうかという疑問も芽生えてくる。自我はどのようにして生まれるかということは根本的な問いではあるが、さらに、自我がどのような刺激を受けて発達するのかということにも興味が出てきた。

そうしてついには、社会生活のなかで接するコミュニティが変われば、それに伴い自我も変化しているのではないだろうかと考えるようになったのである。そこで、今回は筆者自身が海外滞在中に毎日書いていた日記ログを用いて、社会行動主義の観点から考える社会的自我論(George Herbert Mead 1995)を参考にして、接する社会が変遷することで、自我がどのように変わるのかについて探求したい。さらには、発達を遂げた自我がどのように個人のキャリア形成に影響を与えるかについても考察したい。

2. 先行研究

2.1 自我とは何者か

自我について研究をすすめるうえで、まずは、自我とはどのような存在であるかを明確にする必要があるだろう。以下、Meadによる自我の定義を参照したい。

自我は、生理学的有機体それ自体とは異なった性格を持っている。自我は、発展していくなにかである。自我は、生誕のときからそこにあるのではなく、社会的経験と活動の過程のなかに生じるもの、すなわち、全体としての過程にたいする、およびその過程のなかの他の諸個人にたいする所与の個人の結果として、彼のなかで発展するものなのである。(Mead 1995:170)

われわれが「自我」という単語を連想するときには、それはわれわれの身体に所属するのだろうか、それともそれ単独で存在することが可能なのだろうか、というような疑問が、次々と頭のなかに押し寄せてくる。しかしながら、自我とは、われわれの身体とは切り離して考えられる存在なのである。Meadにいわせてみれば、赤ん坊が生まれたときには、彼のなかに自我は存在しないといえる。彼が成長する過程で、社会のもっとも小さな単位ともいえる家族やそのほかの社会成員との接触を通して、自我が形成されていくのである。

さて、自我についての概念が明らかになったいま、最大の関心は、われわれはいかにして自我を認識するのかという点である。われわれの自我は、社会的過程での経験をえることによって発達し、その認識においては、「所与の人または個人が含まれている社会的行為または活動の過程に関わることで、見出される」(Mead 1995:173)。つまり、われわれにとってその自我の存在・認識ともに社会の存在なくしては成立しないといえるのだ。

では、われわれはどのような過程をもってして、自我を個人のなかに見いだすのだろうか。以下、ミードによる見解を参照されたい。

個人はこのように、自分自身を直接的にではなく、間接的にのみ経験する。すなわち、同じ社会集団の他の個人の成員の特殊な観点から、または、彼が所属する全体としてのその社会集団の一般化された観点から、経験するのである。というのも、彼は、自我もしくは個人として、直接的または無媒介的にではなく、彼自身にたいする主体になることによってではなく、他の諸個人が彼にとって、または彼の経験のなかで対象であるように、彼が彼自身にとって初めて対象になる限りで、彼自身の経験に入るからである。そして、彼は、彼と他の諸個人の双方がそのなかに含まれている社会環境または経験と行動の内部で、彼自身に向けられた他の諸個人の態度を取得することによってのみ、彼自身にとっての対象になるのである。(Mead 1995:174)

われわれは、自我を直接的に個人のなかに見ることはできない。なぜなら、社会的過程を経て形成される自我は、社会的過程を通してのみ個人のなかに見いだされるからである。社会的過程を通すことによって自我は形成され、そうして、ようやく個人にとって対象として認識することができるのである。他の諸個人にとっても、自我が社会的過程・経験を通さない限り、認識されないのと同じように、その個人にとってもその過程を経ることのない自我は自我として認識されないのだ。その点については、Mead も以下のように捉えている。

コミュニケーションのなかに入り込む自我の総計を決定するのは、社会的経験それ自体である。もちろん、自我の大部分は、表現されなくてよい。われわれは、異なった人びととの異なった関係の全系列を続けていく。われわれは、ある人にたいしてはある事物であり、他の人にたいしては他の事物である。それ自身との関係における自我にとってのみ存在する自我の部分がある。われわれは、われわれの知人との関連において、われわれ自身を、あらゆる種類の異なった自我に分割するのである。われわれは、ある人と政治を論じ、他の人と宗教を論じる。あらゆる種類の異なった社会的反作用に対応する、あらゆる種類の異なった自我が存在するのである。社会過程それ自体が、自我の出現に責任がある。このような類型の経験を離れて、社会過程は自我としてそこに存在しない。(Mead 1995:177)

このように、あらゆる社会での過程を通して、それに対応する自我が存在し、われわれはそれを取得している。以上のプロセスをもってして、われわれは個人のなかで自我を見いだすのである。

2.2 自我とアイデンティティ

われわれは自我にたいして「アイデンティティ」という言葉をしばしば用いることがある。はたして、自我とアイデンティティは、どのように区別されるのだろうか。アイデンティティについては、何人かの学者たちによって定義されているが、今回は代表的ともいえる心理学者 Erik Homburger Erikson と社会学者 Peter Ludwig Berger の二人を取り上げたい。

まず、アイデンティティの概念を築いた Erikson は、それを「自己の内的な連続性（斉一性）と社会と自己との連続性（共時性）の意識」（Erik Erikson 1959）と定義している。Erikson が、アイデンティティを「自分が特定の社会的現実の枠組みのなかで定義されている自我へと発達しようという感覚」（Erik Erikson 1959）と表現していることから読み取ることができるのは、Mead が自我を社会の活動のなかで発展するものと捉えているのにたいして、自己の内的意識に注目しているという点でユニークだということだ。

さらに、社会的構築主義である Berger は、以下のようにアイデンティティ理論を捉え、発展させている。

アイデンティティは社会的プロセスによって形成される。アイデンティティはひとたび結晶化されると、維持され、修正され、時によっては社会的関係によって形成しなおされることさえある。アイデンティティの形成と維持の双方に含まれている社会的プロセスは社会構造によって規定される。逆に、人間の体、個人の意識、それに社会構造という三者の相互作用によって生み出されるアイデンティティは、社会構造を維持し、修正し、場合によってはつくり変えるなどして、既存の社会構造に対して逆にはたらきかけもする。それぞれの社会は特定のアイデンティティがそのプロセスのなかで生み出されるそれぞれの歴史をもっている。しかしながら、これらの歴史は特定のアイデンティティをもった人間によって形成されるのである。（村澤 2005:8）

Berger は、アイデンティティを自己内面的なものと捉えている Erikson にたいして、ふたたび Mead よりの立場である社会構築論を展開させているのだ。アイデンティティを内面的意識と捉えたとき、Erikson を議論の範疇に入れたとしても、その構築プロセスは社会との関係は切っては切れないもので、自我は社会との相互関係によって形成されているという点は大きな方向性として捉えて問題ないといえる。

2.3 『一般化された他者』の態度取得

前項より自我とは社会的プロセスを経て形成されるものであるが、それについてより理解を深めるため、Meadの理論に含まれる〈一般化された他者〉の態度取得に関してさらに言及する。まず、〈一般化された他者〉とは何かについて、彼は以下のように定義する。

個人に彼の自我の統一を与える組織化された共同体または社会集団は、「一般化された他者」と呼ばれるだろう。一般化された他者の態度は、共同体全体の態度である。こうして、例えば、野球のチームのような社会集団の場合には、そのチームが、一組織化された過程または社会的活動として一その個々の成員のそれぞれの経験のなかに入っていく限りで、そのチームは一般化された他者である。(Mead 1995:192)

Meadはひとりの個人が自我を形成する際に影響を与える共同体・社会集団について〈一般的他者〉という概念を用いている。さらに、〈一般化された他者の態度〉が個人の経験のなかに入ると述べているが、それはいかにして自我となりうるのであろうか。

自我意識は、社会的個人の身边に明確に組織化されているが、それは、すでに見たように、人が単に社会集団のなかにおいて、他者によって影響され、また他者に影響しているからではなく、(これが、私がこれまで強調してきた点であるが)自我としての彼自身の経験が、彼が他者に向けた彼の行動から受け継いだ経験だからである。彼は他者の態度を取得し、彼自身にたいして、他者が行うように行動する限りで、自我になる(Mead 1995:211)

自我は、他者の影響を受けて形成されるというわけではない。われわれの経験は、何か行動するとき、他者の態度を取得し、それに倣って行動することで自我となるのだ。つまり、われわれの行動はただそれ単体で完結するのではなく、これらは社会とのつながりを持っていて、社会成員になんらかの影響を与えていて、他者にたいして別の行動を起こす要素となるのである。そうして生まれた他者の態度を取得し、反作用することが他でもない自我を誕生させるのだ。これについては、以下ミードの主張を参照すると、「社会的行動のなかで他者に影響を及ぼし、次にその刺激によって引き起こされた他者の態度を取得し、次に今度はこの反応に反作用するという社会過程こそが、自我を構築する」(Mead 1995:211)と述べている。このように、他者の態度を取得して、それにたいする反作用が自我意識というのであれば、自我の構成要素として他者の存在は不可欠であり、それなくして自我は存在し得ない。

諸君に向けられた他者の態度を取得、または感得することが、自己意識を構成するものであり、それは、個人が自覚し、経験する単なる有機体の感覚ではない。社会的経験の過程のなかで、個人の自己意識が発生するまでは、個人は彼の肉体—その感情や感覚—を単に彼の環境の直接的部分として経験し、自分自身のものとしても、自己意識との関連においても経験しない(Mead 1995:211)

上記のミードの記述をもとにすると、他者の存在は自我という情報の媒介者であり、そのプロセスを介さない場合は自我とは認められず、それは個人においてはただの身体的に体感して感覚といえる。他者の存在があつてはじめて他者の態度の取得が可能になり、自我が存在し、他者の存在なしには自我は存在し得ないのである。また、Mead はこうして生まれる自我を以下のように定義する。

「I」は他者の態度に対する有機体の反応であり、「me」は人が自ら想定する他者の態度の組織化された組み合わせである。他者の態度は、組織化された「me」を構成し、次に、人はその「me」にたいして、「I」として反作用する(Mead 1995:215)

このように、他者の態度を取得して個人のなかに組織化される「me」は、その反作用として「I」として反応するのである。また、自我が他者の存在なしには存在し得ないのとおなじように、「I」も「me」を取得することによってのみ個人のなかに生まれるのである。

2.4 社会的自我の構築

前項では、自我が他者との関係のなかでいかにして生まれるのかについて述べた。では、自我は社会のなかでどのような自我の形成プロセスを辿るのであろうか。以下は、Mead による社会と自我との関係性に言及する主張である。

彼が、他の諸個人とともに参加している特別の社会的行動のなかで、彼自身にむけられ、また相互にむけられた、他の諸個人の特殊な態度を、単に組織化することによって構成される。しかし、個人の自我の十全な発達の第二段階では、その自我は、これらの特殊な個人的態度の組織化によって構成されるだけでなく、一般化された他者の、または彼が属している全体としての社会集団の社会的態度の組織化によっても構成される。これらの社会的ないし集団的態度は、個人の直接的経験の領域に持ち込まれ、特殊な他の諸個人の態度が含まれるのと同じ方法で、彼の自我の構造ないし構成

における要素として含まれる(Mead 1995:195)

彼は、自我というのは<一般的な他者>の態度を個人のなかに組織化することによって構成されるが、そのプロセスは社会を対象としても同じようなプロセスを辿るといっている。社会との関わりのなかで生まれる自我は、個人が属している社会集団の集団的態度を個人のなかに持ち込むことによって構成されるのである。また、非常に重要な点は、これが自我の発達第二段階であるという点で、他者の態度を取得した自我が十全な発達を遂げるためにこのプロセスが踏まれるというのだ。

3. 研究方法

3.1 対象

今回対象とするのは、筆者自身が2013年3月10日から2013年12月29日にかけてイギリス・カンタベリーとオランダ・アムステルダムに留学していた際に記録していた日記ログである。日記の冊数は5冊にわたり、筆者自身の手によって日本語と英語を織り交ぜながら書かれている。異なる文化圏において生活をするという新しい環境に自らを置くことによって起こる日々の出来事や、いかにその環境で自らの思考や意識が変化するかを書き留めたものだ。そこには、新たに出会うコミュニティメンバーたちや人びととのコミュニケーションを通して、自身がいかにそれらの事象を捉え、それらがいかに筆者の自我の形成に影響しているかという過程を垣間見ることができる。

そして、本研究においては、上記の日記ログをエクセルファイルに文字起こししたデータを、元データとして扱う。同じ日の文章が長く続く場合は、語られているテーマごとに都度セルを分けて記入した結果、3,163行に及んだ。

3.2 滞在期間のフェーズ分類とその概要

本研究では、海外での滞在期間を3つのフェーズに分類し、それぞれの期間における自我を形成する要因の変化についても関連性を探りたいと思う。各フェーズの分類は、イギリス留学期（2013年3月10日～2013年8月31日）、オランダ短期滞在期（2013年9月1日～2013年12月11日）、ヨーロッパバックバック期（2013年12月12日～2013年12月29日）の3つとする。さらに、フェーズによりそれぞれの環境において筆者自身の社会的役割が異なるため、結果を考察する際には、その点も参考にしたいと思う。以下、各フェーズにて筆者自身が接する社会単位とその概要を整理する。

まず、イギリス留学滞在期における拠点の拠点は、イギリス南東部ケント州にあるカンタベ

リーであった。2011年度にイギリスで行われた国勢調査では、人口約151,200人(Office for National Statistics 2012)とされる小さな街である。そこで、ホストファザーとホストマザー2人の家庭にホームステイし、Canterbury Christ Church University で開講されたGeneral English Language Programmeに参加した。

つぎに、オランダ短期滞在期間では、筆者はオランダの首都であるアムステルダムに滞在していた。アムステルダムは、人口810,767人(Statistics Netherlands 2015)を要し、そのうち31%がモロッコやスリナム、トルコなどヨーロッパ圏以外からの移民が占めている(Statistics Netherlands 2001)多文化共存都市である。アムステルダム西にあるGEUZENVELD-SLOTERMEERで、50代のオランダ人女性と共同生活をしてきた。はじめの2週間はUniversiteit van Amsterdamで開講されたDutch Language Courseに通い、その後の期間は、アムステルダム市内にある図書館で英語を自習する毎日を過ごした。

そして、ヨーロッパでのバックパック期では、長距離バスや電車を使い、各都市でホステルに宿を取りながら、筆者一人で旅をした。訪れた国や街は、ドイツ・ベルリン、ドレスデン、デュッセルドルフ、プラハ・チェコ、オーストリア・ウィーン、ハーク、ハンガリー・ブダペストの4ヶ国7都市である。

3.3 方法

今回は、「3.1 対象」において前述した元データを用い、日記本文で繰り返し出てきたワードを抜き出してタグ付けを行った。その結果、1,722個のタグを確認することができた。タグ付けは、次のような日記本文の場合、『苦手だからと言って逃げない。むしろ自分から声をかけていく。大きな声ではっきりと相手が分かるように』というように、下線部で示された単語を抜き出す形式で行った。

3.4 調査項目・タグのカテゴリ化

まず、前項で日記から取り出したタグは無数に存在したため、より有力な結果が得られるよう類似性のあるものをまとめるカテゴリ化の作業を行った。さらに、タグの中には「愛」「自分」など、単語だけでは意味を判断できないものが存在したため、日記に立ち返り、「お互いに愛する」「自分で決断する」など文脈から判断して再度タグを付け直したものもある。

また、カテゴリ化についても分析にかけるにはあまりに多すぎたため、数回に分けてカテゴリの精査をした。項目名は、1回目のカテゴリ化でできたものを<第一カテゴリ>、2回目は<第二カテゴリ>、その後行った3回目を<第三カテゴリ>としている。それぞれ323個、281個、最終的な第三カテゴリは67個になった。以下、各カテゴリに含まれるタグと例文は表1を参照されたい。

表 1. 各カテゴリと個数・含有タグ一覧

番号	カテゴリ名	カテゴリ出現回数	タグ	例文
1	安心・安全・安定した環境	73	身を守る,自分を守る,安全を守る,安心,安全,治安,無事,守る,save,安全を守る,環境が大事,広いスペース,周りの環境がいい,居心地のいい環境,いい環境,社会秩序,社会秩序を守る,順守,整備,平安,平穩,穏やか,静か,peaceful,calm,雰囲気,大事,アットホーム,雰囲気,空気感	自分の身は自分で守らなアカン(11月1日)
2	家・家族	280	家を探す,家,部屋,home,家庭を守る,家庭崩壊,親は抑止力,家庭のルール,親,父,母,家庭,家族,family,姉,弟,兄弟,健三おじちゃん,和輝,久子さん	帰国後、家族に会います(9月8日)
3	異文化・違い	524	新しいものが生まれる,新鮮,フレッシュ,新しい,fresh,new,感覚の違い,異文化共存,クリスマスを大事にする,サイズが大きい,違い,ギャップ,difference,different,mix,異文化,多文化,オランダ人の合理主義,ヨーロッパの考え方,文化に対して寛容,違いに寛容,異文化を受け入れる,違いを受け入れる,ショックが大きい,驚き,衝撃,ショック,びっくり,shocked,迫力,呆れる,外国,外国人,海外,ネイティブ,アジア,宇治,asia,イスラエル,アラブ,チェコ,ハンガリー,ブダペスト,ロシア,ソ連,budapest,アメリカ,イタリア,イギリス,アムステルダム,スウェーデン,スペイン,ドイツ,フランス,ベルリン,ロンドン,ヨーロッパ,パリ,berlin,Europe,国籍,オランダ人,人種,日本人,フランス人,黒人,American,black,British,方向性の違い,違和感,文化,culture,丁寧,吸収,周りに合わせる,適応,適応能力,馴染む,古い型,古いもの,古い街並み,古い店,古い製法,伝統	違う性質だから気になくもないところも出てくるけど、お互いに受け入れて、尊重してっていうのが大切ななと思った(3月30日)
4	お金・経済	143	ユーロが高い,お金が高い,値段が高い,金銭的な余裕,お金の無駄,お金大切,コストが悪い,お金の管理,ATMを探す,お金カード,キャッシュ,コスト,富,money,安い,お金をかける価値がある,金儲け,経済の安定,経済発展,経済的に弱い,capitalism,資本主義,経済,経済的,労働力,店を探す,モノを探す,かばんを探す,買い物,買う,shop,かばん,給料が高い,低賃金,月収,給料,待遇,稼ぐ,収入,貯める,貯蓄,節約,商売,経営者,サービス,ビジネス,交渉,モノの価値,モノを大切に,価値あるもの	お金が大きく関わる部分もあるんやろな(10月16日)
5	外見・見た目重視	207	おしゃれ,ファッション,ブランド,ファッション,fashionable,ブランド,背が低い,見た目がひどい,背が高い,イケメンが多い,身だしなみを整える,身体が細い,足が細い,姿勢を意識する,第一印象が大切,イケメン,印象,外見,impression,爽やか,スタイル,出発する準備,イケメンが多い,センスが悪い,かっこいい,センス,洗練,スタイリッシュ,cool,統一感,デザイン,インテリア,ディスプレイ,design,美意識,美人,beautiful,beauty,綺麗,美しい,美	ゆいの友達はいケメンも多いし、どちらかというとイケイケ(12月13日)
6	学校・教育	147	教育水準が低い,授業,受験,学校,卒業,教室,クラス,class,school,生徒,教育,図書館,スティーブ,谷川さん,学生,大学,大学生,リサーチ,クエスチョン,卒論,分析	時々劣等感を感じることもありますが、一番上のクラスでよかったなと改めて感じます(4月18日)
7	感心・感動	153	素晴らしい,すごい,素敵,impressive,感心,感動	上に出てきた感動。なんて美しい景色と尖塔(3月30日)
8	完璧を目指す	73	高い勉強代,失敗への恐れ,失敗がこわい,損する行為,間違い,失態,失敗,欠陥,mistake,プロ意識,プロ,プロフェッショナル,専門性	綿密に計画を練って完璧を目指す(6月8日)
9	競争・対立・勝負	101	競争社会,負けることが悔しい,負けず嫌いな勝負,負け,優越感,劣等感,できないことが悔しい,悔しい思い,悔し,出来事,結果が悔しい,後悔,regret,喧嘩,口論,fight,対立,ストライキが多い,国民のパワー,抵抗の無駄,反動,反抗心,反発,反抗,抵抗,バネ,理不尽,ストライキ,デモ,反抗心が強い,大きな差が生まれる,格差,格差社会,差,比較,比べる	支配、抑圧、コントロールのあるところには必ず反動がくる(12月13日)
10	健康・身体	143	健康への影響,肌の調子がいい,意識的に摂取する,強い身体,健康,health,healthy,医療,ランニング,ヨガ,歩く,のど,身体,肌,声,しわ,顔,blind,body	I am healthy.(12月13日)
11	公共・パブリック	84	田舎,都会,都市,地域,街が小さい,建築が多い,建物が古い,街,街並み,建物,不便,便利,楽	バスを諦めてタクシー探そうということ、で、探しますが、なんせ田舎。一台も通らない。(3月18日)
12	語学力を高める	122	オランダ語,英語,フランス語,言語レベル,言語レベルが高い,英語力が高い,語学力向上,意識的に英語を話す,アクセント,言語,語彙力,スピーキング,speaker,speaking,language,listening,リスニング,ボキャブラリー,積み重ねが大事,again,repitation,振り返り,繰り返し,積み重ね	意識しないと日本語使っちゃうね。日記もこれから英語で書いてみようかな(4月15日)
13	個人主義・孤立	35	人との距離,人から離れる,干渉されたくない,関係ない,無関心,ignorance,無視,興味ない,他者に対する優先順位が低い,alone,個人,寂しい,一人,lonely,loneliness,個人主義,お別れ,self-made,自立心,独立,自立,独立endent	今こんなにも自由にのびのびと生活できてるのは一人やからということに気づいた(5月20日)
14	国家権力・支配	110	税金が高い,管理国家,国民を守る,ソ連崩壊,国の発達,国の発展,国による抑圧,国家による規制,国家,先進国,country,外国人を受け入れる,国の管理,大きな力,control others,他人をコントロール,権力に勝つ,国の支配,権力が厳しい,独裁者,軍権,権力,force,power,忠誠心,犯罪を認める,罪,違法,冤罪,マリファナ,ヤクレイブ,殺す,暴力,麻薬,ドラッグ,バイオレンス,売春,売春婦,犯罪,非行,盗み,罰金,drug,sin,法律による禁止,合法,正義,法,法律,law	たしかに軽犯罪やし向こうが完全に悪いし裁判までいけば確実に勝てると思う(7月22日)
15	子ども	93	小さい男の子,子どもの管理,ダメな子,子どもの成長,悪い子,子どもたちの強さ,子どもは強い,子どもが生まれるしつけが厳しいしつけ,子ども,子育て,children,悪ガキ,出産,シングルマザー,妊娠	思ってたのはしつこくて難しいねんという。子どもは大好きやけど、しつこくとか子育てとなるとまた違うということ。(5月26日)
16	困難・問題解決	121	断念,諦め,挫折,仕方ない,人生の上下が激しい,逆境,おもしろ,トラウマ,大きな理由,過程が大切,原因,理由,結果,大きな損失,難しい,difficult,リスク,壁,困難,tough,pass,hard,risk,困る,トラブル,問題,問題解決,問題提議,解決,trouble,solution,問題解決力	ぜひドゥオーモにものぼって見たかったですが、長蛇の列だったので断念(3月17日)
17	幸せ・充実	227	幸福度の向上,幸せ,幸福,幸福感,幸福度,ハッピー,祝福,鐘,不幸,happier,happiness,happy,fine,よかった,充実,満足,満足感	和輝も喜んでくれてよかった(3月18日)
18	自己管理	270	時間をかける価値がある,時間制限,時間の余裕,長い時間,長い道のり,時間の無駄,時間大切,効率的,機能的,時間,遅れ,スピード,スマート,タイムズ,time now,遅い,control myself,時間管理,自己コントロール,メンテナンス大事,自己ルール,自己管理,タイムマネジメント,メンテナンス,自己責任,self-controlled,生活習慣,習慣,habit	そのモノに、価値というか、これはこういうものですよって思い込んで、自分に暗示をかけて、ルールつくって制限してる(3月16日)
19	自己実現	16	羨ましい,憧れ,理想,理想家,理想像,dreamer,ideal	Gwennがうらやましい(3月30日)
20	仕事・キャリア	261	イベント,企画,クリスマス,プロジェクト,管理職,社会に出ることが大事,小さい会社,仕事のコラボレーション,インターン,オフィス,会社,ワークスペース,企業,社会人,就活,就職,働く,キャリア,副業,仕事,work,スーツ,而立,記者,director,writer,ライター,ライター,インタビュー,取材,編集,出版,面接準備,就活の準備,コラム,コラムニスト,columns,book,本,雑誌	人のために、世界のためになる仕事であればそれは全く恥ではない(4月12日)

21	自己に対するネガティブな感情	135	真実を認めない,自分の非を認めない,間違いを認めない,プライドが高い,Release the shame,恥,shame,不名誉,プライド,制限,できない,不可能,リミット,限界,limit,気が強い,エゴ,自己中心的,勝手,自分勝手,強情,わがまま,自信過剰,自惚れ,虚栄心,自己を失うことへの恐れ,自分が怖い,自分を失う,自分に価値がない,私が悪い,信念を失う,自分が弱い,不信,自己不信,自信喪失,自己嫌悪,自己評価が低い,苦しい,葛藤,悩み,コンプレックスの克服,苦手,短所,高所恐怖症の克服,弱点の克服,弱音,弱み,weak,悪い予感,調子が悪い,悪い感情,悪い考え,マイナス,ネガティブ	苦手だからと言って逃げない(8月7日)
22	自己の存在・思考・思想	252	自分の深い部分,自分の言動,自分の軸,自分の内側,内面が大事,存在,自分,yourself,me,myself,oneself,客観的,inside,自分のすべて,自分との勝負,自分の考え,深く考える,考えのスケール,考えることが大事,思考が大事,思考が大切,思考,思想,think,thought,thoughts,思い,deep mind,瞑想	人間は完璧ではないが常が学習するものである。特に考え方と言葉の部分(12月9日)
23	自己表現	217	自分の考えを伝える,自分が話すことが大事,アウトプットが大切,意見を強く強さ,意見強い,書く,話す,アウトプット,アピール,アプローチ,表す,意見,伝える,表現,発信,発信者,応募,誘う,express opinion,日記,言葉,word,手紙,メッセージ,messenger,message statement,言論,コンセプト,テーマ	話してなんぼ。意見言ってなんぼ(11月10日)
24	自主的な行動・リーダーシップ	191	自主的,主体性,自主性,proactive,積極的,社会への生産性,人を巻き込む,組織の中心,組織のプレイン,role model,責任,役割,should,イニシアチブ,キャプテン,リーダーシップ,リード,導く,leadership,initiative,lead,意志の強さ,強い意志,意志が弱い,push myself higher,意欲,モチベーション,勇氣,行動,act,action,create,doer,doers,行く,見る,チャレンジ,トライ,挑戦	自分に自信を持ち,人を巻き込める人です(8月1日)
25	自信・自己肯定感	235	可能性,可能,最大限,possible,できる,自分に価値がある,ありのまま,マイペース,自分を大切に,私は強い,自己評価,誇り,自信,肯定感,proud,確信,believe,believing,大丈夫,長所,上手い,得意	信じる自信につながった(4月5日)
26	時代・世代	40	時代,世代,近代的,モダン,generation,period,若い,若者,青春,young	あの時代の同性愛者だったからには,偏見もすぐあったんだろうな(7月13日)
27	社会・世界	210	社会統合,社会に挑む,サービスの発達,医療の発達,social rule,現代社会,構成員,社会,社会的,国際社会,福祉,世界が広い,世の中,世界,world,視野,普通,普通,レギュラー,当たり前,基本,組織の管理,組織による抑圧,組織のルール,所属,組織,団体,basque,community,AFS,バイト	いよいよ就活が始まる。準備はできているか?社会に飛び込む覚悟はあるか?(11月30日)
28	社会的地位	52	学力,学歴,TOEIC,社会的地位が高い,社会的ステータスが高い,立場を守る,地位を失う,立場が弱い,エリート,お金持ち,金持ち,地位,優位,社会的地位,立場,rich,権利	今の私の行動は学生という立場やからこそ許されていること(4月14日)
29	社会問題	150	移民が多い,移民管理,開放的な移民社会,移民に対して厳しい,移民,エスニシティ,ジプシー,マイノリティ,ユダヤ人,bohemian,gypsy,imagination,minority,moroccan people,移民に寛容,移民を受け入れる,移民を認める,職を得ることが厳しい,いじめ,リストラ,自殺,失業,生活保護,平和,平和主義,peace,peaceable,peaceful,戦争で戦う,戦争の終わり,大戦,戦い,戦争,争い,war,兵士,貧困,貧しい,貧しさ,搾取,難民,ホームレス,物乞い,飢餓,不公平,平等,対等,ニュートラル,同等	彼らは二重国籍をもっていてどちらの政府からも生活保護をうけてそれだけで暮らしている(10月16日)
30	宗教・宗教的思想	172	キリスト教,聖書,ジーザス,教会,地獄,天国,blessed,christ,father,God,jesus,lord,mercy,罪深い,情け深い,慈悲,深さ,愛は強い,愛は忍耐強い,宗教の規則,seek,find,宗教,信仰,信心,恵まれている,恵み,神祈り,無宗教,礼拝,許し,follow,religious,アッラー,イスラム,イスラム主義,ムスリム,メッカ,Koran	神様に感謝(3月13日)
31	充実・幸せ	458	楽しいことを計画する,サプライズ計画,楽しい,楽しませる,楽しむ,楽しめる,ワクワク,enjoy,excited,fun,joy,joyful,期待,楽しみ,ユーモアを大切に,ユーモア,大げさ,落語,オチ,コメディ,ジョーク,笑い,笑う,笑わせる,ユーモア,愉快,面白い,humor,joke,laugh,豊かさに対する意識,豊か,贅沢,luxury,笑顔,喜び,嬉しい,smile,pleasure,smile	飲んだら注ぎに来てくれて,コースターに線が増えて行くシステム。おもしろい。(4月7日)
32	受動的な行動・他者を優先	24	インプットが大事,待つ,attract,hearer,hearers,listen,flow,react	ツアー客でいっぱいかと思えばしばらく待つと人気がなくなって静かおとずれたりする(6月28日)
33	食・食べ物	420	食事を始める準備,下準備,食事の準備,深い味わい,食が大切,食べ物を探す,delicious,断食,マーケット,食,食べ物,食事,料理,美味しい,ご飯,野菜,vegetable,eat,food,まずい,market,食べたい,食べる,オーガニック,無農薬,organic	フィッシュアンドチップス,思ったよりおいしかったが毎度のごとく重い(3月13日)
34	人生・ライフスタイル	261	生活レベル,ライフスタイル,lifestyle,生活レベルの向上,life,base,いい生活を大切に,生きる,生活,live,日常,パワー,転機,チャンス,タイミング,機会,chance,opportunity,運,奇跡,ラッキー,dstiny,luck,次のステージ,人生のステージ,大人,ステップ,ステップアップ,step,絶対,必要,必要最低限	朝シャンプー生して思ったのは,人は思いついて人生生きてたというところ。(3月16日)
35	人生の指針・生き方	455	自分のセオリーをもつ,人生の指針,生活の指針,人生で大事にしたいこと,人生で大切にしたいこと,信じるもののために戦う,やりたいこと中心,芯をもつことが大切,人生の計画,principle,信念,belief,望み,望む,なりたいたい,やりたい,求める,ほしい,want,will,desire,hope,requests,希望,willing,行きたい,ask,どうしたい,見たい,夢,生き方,人生,life,way,将来,未来,future	目標を定めること。人生の指針。興味の幅が広いことは良いけどね。深めることが私には必要。(11月22日)
36	シンプルな考え方	242	考えの明確さ,考えをクリア,シンプル,easy,ストレート,simple,本質,リアル,現実,真実,ドキュメンタリー,事実,実感,truth,authentic,authcity,documentary,real,faith,TRUE,素直が大切,ざっばらん,誠実,真面目,無邪気,天然,正直,素直,pure,honest,honesty,pure,ビュア,優柔不断,worry,どうしよう,どうする,迷う,戸惑い,lost,明確,大切,明確,的確,クリア,はっきり,clear-mind,clear,捨てる	その時々ギモンをクリアにすることで素直に信じることができる。(11月21日)
37	信用・信頼関係を重視	130	嘘,信びよう性,フェイク,hypocrisy,言い訳,裏切に対する恐れ,疑う,疑い,裏切,疑念,極める,利用,裏切る行為,裏切に対する恐れ,気が強い,信用をなくす行為,信じることを大事にする,人に頼ること大切,信じること大切,信頼を失う,頼られる,頼り,信頼,信頼関係,信じる,信用,約束,trust,rely,reliable	なら一時の誘惑にだまされず私を信じてほしかったな・・・(3月12日)
38	政治・政治的思想	39	過去,歴史,story,事件,言論の自由を認める,改革,革新,税金,共産党,政治,左翼,リベラル,社会主義,右翼,政府	今日帰道エルヴィラと政治,歴史の話をしてた。日本,中国,韓国,北朝鮮の国交関係についてたずねられて,しっかりと答えられなかった(8月22日)
39	精神的な安定	291	心の余裕,冷静さ大事,冷静になることが大切,落ち着き,平常心,冷静,心の準備,感情のコントロール,感情の安定,安定志向,テンションがあがる,調子にのる,調子がいい,気持ちいい,気分,最高,精神レベルが高い,精神力が高い,精神的な安定,信念を強く強さ,精神力強い,自分を強く,メンタル強い,high spirit,spirit,strong,メンタル,強さ,精神,精神的,精神力,mentor,心,集中力,ベンチを探す,カフェ,コーヒー,非日常,いい気持ち,居心地,快適,リラックス,癒し,心地,relaxed,神秘,神秘的,スピリチュアル,オーラ,spiritual,いい方向,ポジティブ,大事,明るい,前向き,ポジティブ,positive	旅でいろんな環境に身を置いてお金がなくとも自分の希望を具体化してる彼だからこそ精神力が高い(12月9日)
40	性別・性差	100	男女の考え方の違い,男尊女卑の考え方,女性らしい仕草,仕草がオカマ,性差,男女,男性,男尊女卑,女性,ゲイ,ジェンダー,同性愛,女の子,男の子,women,female	食べ方が美しい女性です(4月7日)

41	選択肢と決断	31	決断,decide,decision,判断,覚悟,決める,選択,選択肢,choice,choose,手段	とりにあらずwifiがある宿まで行くことを決断(3月19日)
42	他者とのコミュニケーション・社交性	334	教えてくれる,教え,教えてくれた,教える,teach,大きい声,深い話,コミュニケーション大切,おしゃべり,ディスカッション,会話,communicate,conversation,discuss,コミュニケーション,コミュニケーション力が高い,コミュニケーションのトレーニング,人望,人脈,社交家,社交性,社交的,交流,フランク,communicative,friendly,フレンドリー,人見知り,消極的,双方向,相互関係,相互作用,お互い一方的,interaction,interactive,相互理解,メンター,アドバイザー,相談,クラブ,party,パーティ,電話,メール,連絡,他者の考え方を知る,他者の考え,遊ぶ,遊び,遊び心,理解を深める,納得,理解,理解できない,理解不能,和解,分かる,recognize,understand,understanding	本当にごめんなさい。一番初めにあなたたちに連絡を入れるべきでした。コミュニケーションよ(4月14日)
43	他者に寛容・心を開く	225	心が軽い,素の自分を出す,オープン,オープンマインド,open,open mind,open-minded,柔軟,柔軟性,しなやか,臨機応変,他者への態度,他者への共感,価値観の共存,他者に対して心が広い,他者に対して寛容,お互いに受け入れる,他者を受け入れる,変化を受け入れる,accept others,他人の意見を受け止める,他者を認める,他者を褒める,generous,他者を受け入れる,忍耐強さ,patience,patient,忍耐力,我慢,忍耐,他者のセオリーで好きなもの,他者の世界観が好き	人生、罪と許しの繰り返し。いつでも心の広い人でありたい。(3月18日)
44	他者に対するネガティブな感情・態度	190	気性が荒い,怒る,angry,気分悪い,キレる,アホ,バカ,嘲笑,罵る,なめられている,見るに堪えない,モノが汚い,悪い,人嫌,嫌悪感,好きじゃない,嫌い,嫌われる,嫌,hatred,不快,人間の思い込み,差別,偏見,パーソナルスペース,人との距離が近い,他者への干渉,他者への束縛,release others,他者に対して敵しい,憎しみ,妬み,envy,嫉妬,secret,排他的,閉鎖的,保守,コンサバ,陰口,愚痴,悪口,文句,complain,悲しませる,dissappoint,tear,泣く,涙,depressed,sad,sadness,残念,仲が悪い,関係が悪い,相手が悪い	私は昔から平和主義で争ったり、ケンカするのが嫌いやった(10月16日)
45	他者の存在	353	他者を優先する,温かい,親切,優しい,gentle,kind,ごめんなさい,謝罪,謝る,sorry,申し訳ない,他者からの優先順位が低い,自分を受け入れてもらう,他者から褒められる,他者の成長,態度が冷たい,他者の不機嫌,否認が怖い,他人の態度を気にしない,他者の態度,人の仕事,相手の反応,周りの反応,リアクション,人の支配,他者中心,人を失う,people,人々への影響が大きい,人々への影響,周りへの影響,人々への大きな影響,力,accused,否定,批判,自分のリアクション,reaction	自分の行動相手をそういう態度にさせているのは自分である(12月4日)
46	他者への愛・愛情	188	大きな愛,愛が大切,愛から生まれる,愛,love,loving,可愛い,愛嬌,charming,愛のある人,他者への愛,愛する,弟,人々を愛する,愛にあふれた世界,お互いに愛する,愛にあふれている,愛さえあれば生きていける,愛してくれる人,ボランティアは愛,愛されている,愛のストーリー,愛情にあふれている,子どもを愛する,他者の愛,愛される人,愛される,愛らしい,ペットへの愛情,親子愛,愛を注ぐ,価値,愛のある人,愛を信じる,愛はお金じゃない,愛とは許し,love and peace,give people love,The things I love,express love to others,believe in love,share love,love of life,show love	私は愛を与える人(3月21日)
47	他者への好意・尊重	324	ありがとう,感謝,thank,appreciate,恩,恩返し,好き,好かれる,お気に入り,like,おすすりめ,リスペクト,尊敬,尊重,respect,人を大切にすること,お土産,プレゼント,gift,present,	人のことを先に考える。自分のこと一番じゃない。人を大切にすることですね(4月14日)
48	旅・経験	148	体験,経験,experience,初めて,旅行の準備,路地を探索,旅,旅行者,宿,移動,travel	あーなんか今回の旅はいろいろなこと、新しいこと、私が想像しかできなかった世界を体験できて本当に楽しい(3月28日)
49	直感的発想・想像力	433	すべてのアイデア,インスピレーションが大切,アイデア大切,アイデアが生まれる,直感大切,アイデア,インスピレーション,インスピレーションが大切,ひらめき,idea,inspiration,inspire,inspiring,直感,直感大切,直感を大切にすること,におい,feel,feeling,生み出す,クリエイティブ,クリエイティブ,creative,予測不能の事態に備え,何か大きいこと,イメージが大事,イメージ,想像,想像力,imagine,感情大切,気持ち大切,感情,気持ち,heart,興味深い,興味の幅が広い,興味を深める,好奇心,interesting,興味,自由	・柔軟なアイデアを大切にしたい。一型にとらわれずに思ったことを相手に伝えることが大切(6月8日)
50	丁寧・秩序	37	整理,クリーン,清潔,掃除,clean,計画的,字が細かい,些細なこと,細かいところ,神経質,脆い,繊細,テリテリ,丁寧,がさつ,大雑把,無頓着	地下に倉庫がありました。なかなか汚かったです。整理もあまりされてなさそう・・・でもまあいいのあるのおもしろいよね(3月31日)
51	道徳・礼儀・マナー	149	悪の存在を認める,私は悪くない,悪,善悪,right,正当化,bad,悪くない,警察,善悪に対する価値観,人を優先することが大事,いい人,いい子,good,goodness,モラル,気遣い,思いやり,同情,かわいそう,腰が低い,人のことを考えることが大事,care,謙虚,礼儀,マナー,挨拶,迷惑,遠慮,うるさい,下品	賢さとする賢さは表裏一体。私も気をつけようモラル(11月28日)
52	逃避・情性	24	面倒くさい,飽き性,さばり,だらけ,ルーズ,避ける,逃げ	自分の意志のない優しさはただの逃げ(8月1日)
53	日本・親和性	80	似てるところが多い,見習う,似てる,まね,imitate,日本,Japan,Japanese,日本食,日本人が多い	彼とスピリチュアルな話をするのは楽しい。考えてることまに似てるから(11月15日)
54	人間・本能	225	accept the death,簡単に殺す,死が怖い,命大切,人生の終わり,命,死,dead,death,die,自然の力に勝てない,自然との共存,自然との共生,空気,宇宙,雨,花,空,地球,木,ナチュラル,自然,動物,universe,animal,earth,natural,水,エロス,エロティック,快楽,性,欲性,風俗,sex,人間が汚い,人間力向上,人間は強い,creature,人類,人間,人間性,人間味,human,humanity,欲を満たすことが優先,野蛮,本能,誘惑,欲,子孫繁栄,アルコール度数が高い,喫煙率が高い,お酒が強い,アルコール,お酒,酔いたばこ,光,闇	人間はというか人類はおもしろいな。これまでにいろんなことを自分たちで抑制しながら社会を築いてきた(10月16日)
55	熱意・熱心	117	努力,努力家,hard work,必死,勤勉,頑張り,情熱,passion,熱意,serious,真剣,本気,エネルギー,アクティブ,active,元氣,根性,エネルギー,体力,energy	アイデアの集合体。アイデアにはエネルギーがある(12月1日)
56	能力・才能を高める	291	算数,数字,生物学的,社会心理学,社会学,能力レベルが高い,頭いい,オールマイティ,賢い,clever,intelligent,smart,えらい,sophisticated,思慮深い,立派,向上心,自己成長,better,establish,キャパシティが広い,能力向上,high level,ability,能力,能力主義,実力,才能,洞察力,skill,学び,勉強,study,learn,復習,身につける,気付き,知らない,知る,分からない,知りたい,know,新しい知識を受け入れる,high level knowledge,wisdom,教養,知識,knowledge,ノウハウ	自分の好きなこと、得意なこと、才能のあることを継続して行い、上達させる(8月1日)
57	不安定・環境の変化によるストレス	246	人が多い,出入りが激しい,環境が不安定,空気の乾燥,空気が悪い,悪い環境,よくない環境,寒い,新しい環境,違う環境,環境の変化,ガラ悪い,治安が悪い,危ない空気,空気が違う,危険,dangerous,警戒,用心,人間不信,雰囲気,怖い,恐怖,fear,afraid,心の準備ができていない,ギリギリ,焦り,ストレスの影響,ストレス,忙しい,stressed,pressure,疲れ,tiring,心配,不安,anxious,計画通りいかない,被害妄想が激しい,不安定,緊張,ホームシック,帰りたい,homesick,バニック,混乱,ハプニング,新しい環境,違う環境,環境の変化,アレルギー,血,痛い,けがが多い,赤みがひどい,炎症がひどい,手が冷たい,肌の乾燥,身体の調子が悪い,体調が悪い,身体を失う,肌,肌,弱い,荒れ,不健康,ノイローゼ,傷,眠気	この旅行を始めてからというもの、環境の変化からくるストレス、乾燥のせいか、唇が荒れに荒れて、今までにないくらいヒビ割れ、ただれ始めていた(6月28日)
58	奉仕	61	他人に尽くすことが大切,与える,giver,世話,貢献,serve,尽くす,献身,献身,国際平和村,無償,ボランティア,チャリティー,募金,寄付	他人に尽くすことも大切だけど、他人中心の生活にならないよう気を付ける(8月1日)

59	ポジティブな人間関係	435	共有,交換,シェア,share,sharing,共同生活,調和の象徴,融合,協力,調和,一緒,協調性,together,harmony,company,チーム,チームワーク,断る,強さ,親交が深い,深い関係,関係性の安定,人が怖い,長い関係,お互いに成長,大切な人,一緒に考えることが大切,お互いを大切に,対人に強い,強い関係,お互いに抑制,関係,人間関係,関わり,向き合う,周りに当たり,win-win,face,neighbor,other,others,住み分け,見方,仲介,強い絆,絆が生まれる,絆,つながり,connect,深いつながり,会いたい,会う,出会い大切,出会い,支え,サポート,応援,助ける,慰め,励まし,support, supporter,encourage,help,helper	かずきの思ってたのとは少しちがったみたいなので、しっかりお互いの考えをシェアしながらいけたらなと思います。かずきは何を考えて、私はどうしたいのか(3月13日)
60	メディア・インターネット	115	facebook,LINE,アプリ,twitter,skype,SNS,wifiの調子が悪い,インターネットカフェを探す,インターネット,ウェブ,オンライン,ネット,wifi,ネット環境,インターネットカフェを探す,映画,film,movie,アーティストが多い,アートの活性化,音楽,リズム,アーティストック,アート,美術館,art,artist,artistic,映像,写真,ビデオ,ムービー,動画,メディアの影響が大きい,information,news,情報,メディア,ニュース,オンラインフリー,タミアン,ミランダカー	Twitter, facebookはいい情報発信の場にした(7月4日)
61	目的意識・ゴール	118	完成度が高い,中途半端な人生,こだわりの強さ,妥協,ストイック,適当,徹底,完璧,complete,perfect,perfection,続ける,継続,叶う,達成,実現,achive,realize,成功,高い目標,望む方向,vision,目的,目標,ビジョン,目指す	今まで私は挫折を経験したことがない。挫折するのが、かなわないのがこわいから。高い目標を立てずにいた。自分に自信がなかった(6月28日)
62	友人・仲間	331	個人名<友人(海外)>,個人名<友人(日本)>,友達,親友,仲間,ソウルメイト,仲良し,味方,みんな,他人,friend,friendship,友達が多い,大切な友達	やっぱり大切な友達と思いきり楽しい時間過ごすことが人生の楽しみ(12月23日)
63	留学・留学生	157	ホストファミリー,留学,留学生,個人名<ホストファミリー>	たくさん話す。ホストファミリーにも積極的に話す(3月18日)
64	恋愛・パートナー	227	個人名<恋人>,partner,妻,彼氏,夫,夫婦,浮気,パートナー,旦那,結婚,single,大切にしてくれる,恋愛の存在が大きい,遠距離恋愛,キス,一目惚れ,付き合い,恋愛,恋人,ハグ,告白	パートナーっていうのは2人で一つってところあるし、お互いに足りないところをお互いの長けてるところで補って一つの人生を歩むんよね(3月30日)
65	イギリス時代			
66	オランダ時代			
67	ヨーロッパバックパック時代			

3.5 分析手法

今回の分析調査では、前項でカテゴリ化したカテゴリの出現回数をログデータに記録したものを元データとし、SPSS でクロス分析とコレスポンス分析にかけた。その結果、各日付または各フェーズとカテゴリ出現回数の相関関係のグラフを得ることができた。

4. 分析結果と考察

4.1 各フェーズログデータのクロス分析結果と考察

はじめに、前章で分析にかけた各フェーズにおける第三カテゴリの出現頻度を表したグラフを参照したい。以下は、第三カテゴリのうち上位 30 位までを羅列したものである。

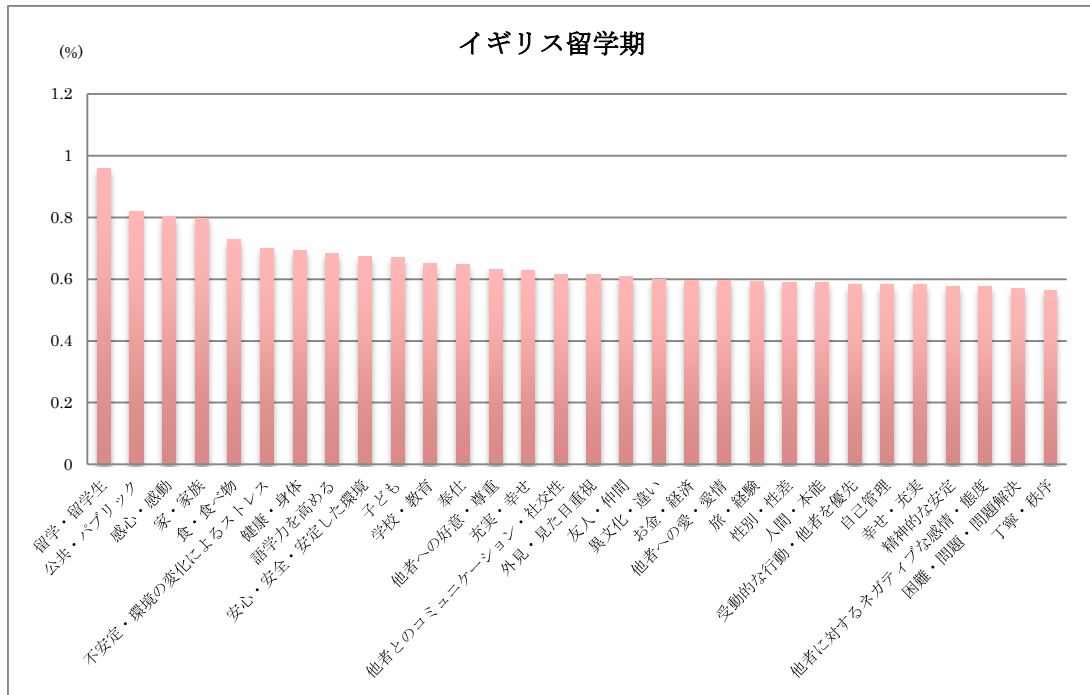


図 1. イギリス留学期における第三カテゴリ頻出度数

イギリス留学期において図 1 から読み取れるのは、今までと違う文化・環境での生活から生じる<不安定・環境の変化によるストレス>や<感心・感動>、<異文化・違い>などカテゴリからも分かるように、カルチャーショックが自身のなかで生じていることである。これは、異文化での生活をするときにはごく自然なことであり、「この旅行を始めてからというもの、環境の変化からくるストレス、乾燥のせいかな、唇が荒れに荒れて、今までにないくらいヒビ割れ、ただれ始めていた」(6月28日)というログにも見られるように、生活環境の変化が自我だけでなく身体・健康にも影響を与えている場面も見られる。

また、この期間は<他者への好意・尊重>、<他者とのコミュニケーション・社交性>、<他者への愛・愛情>、<受動的な行動・他者を優先>、<他者にたいするネガティブな感情・思考>というように他者の存在が多く出現していることが分かる。これは、筆者自身にとって新しい環境での生活のなかで接する一般的な他者の存在を強く意識していることを読み取ることができる。「他者の態度を取得し、彼自身にたいして、他者が行うように行動する限りで、自我になる」(Meead 1995:211)のであれば、このときどのようにして筆者は「me」を取得しているのだろうか、実際のログを参照して考えてみる。

たとえば、4月21日のログには、ホストファミリーと共同で使用している一つのシャワールームの使用時間についての記録が残っている。普段は、22:00頃にはシャワーを浴びていたが、この日はホストマザーがシャワーを浴びている間にうたた寝をしてしまったのである。そして、シャワーを浴びたのは夜中の1:30を回っていた。以下はそのログである。

1:30 ぐらいにお風呂入ったわけやけど、かなり迷惑なことしてる。そんな常識知らずなことではいけません。・・・(お風呂に)入ってる途中、もしフィリップ(ホストファザー)が怒ってお風呂出た瞬間外に立ってて刺されたらどうしようとかしょうもないこと考えてた(笑)・・・でも、怒らしかねへんからな。カレン(ホストマザー)にいたっては絶対言わへんと思うし、困らせたくない(4月21日)

上記のように、他者の態度を呼び起こす自らの行動<非常識な時間にシャワーを浴びる>によって、筆者のなかに一般的な他者の態度が入り込んできていることが分かる。自身の行動が呼び起こした他者の態度は<ホストファザーが怒る>、<ホストマザーが困る>である。そうして、筆者はこの他者の態度を自身のなかに獲得し、<留学生だからルールを守らなくてはいけない>という「me」が構成された。そしてその反作用として、「だから誘惑に負けたあかん。・・・明日起きたら謝ろう」「ホストファザーマザーと本当の家族のような関係」になりたいという自我が生まれていることが分かる。

さらに、イギリス留学期において興味深いことは、<留学>、<学校・教育>、<家・家族>、<友人・仲間>など、留学中に所属していた語学学校やホストファミリーという社会単位と自己との関係に関するカテゴリが上位に上がっていることである。Meadはこれを<集団的態度>と呼んでいるが、その主張は以下のようなものである。

彼が、他の諸個人とともに参加している特別の社会的行動のなかで、彼自身にむけられ、また相互にむけられた、他の諸個人の特殊な態度を、単に組織化することによって構成される。しかし、個人の自我の十全な発達の第二段階では、その自我は、これらの特殊な個人的態度の組織化によって構成されるだけでなく、一般化された他者の、または彼が属している全体としての社会集団の社会的態度の組織化によっても構成される。これらの社会的ないし集団的態度は、個人の直接的経験の領域に持ち込まれ、特殊な他の諸個人の態度が含まれるのと同じ方法で、彼の自我の構造ないし構成における要素として含まれる(Mead 1995:195)

一般的な他者の態度を獲得するだけでは、自我の発達は十全とは言えない。健全な自我が構成されるためには、諸個人の態度だけでなく、社会集団の社会的態度を獲得することが求められるのである。たとえば、5月20日のログには「宿題も難易度高くて、量も多く、7:00前まで図書館いました」(5月20日)という記録がある。この表記からは、<語学

学校>という社会集団に所属する<生徒><留学生>は、宿題の量が多くても終わらせないといけないという「me」が筆者自身のなかに組織化されていることが分かる。そして、集団的態度に従順に反作用した結果として、遅くまで残って宿題をするという自我が発生したと考えられないだろうか。このイギリス滞在期においては、学校やホストファミリー社会集団がもつ社会的態度を筆者は自身のなかに持ち込むことで、留学生・生徒という自我が構築されているのだ。Mead のいうように、自我の構成には、他者の存在だけでなく社会の集団的態度をも取得することでより十全な自我となることが分かる。では、次にオランダ短期滞在期に出現する第三カテゴリーの上位 30 位を見る。

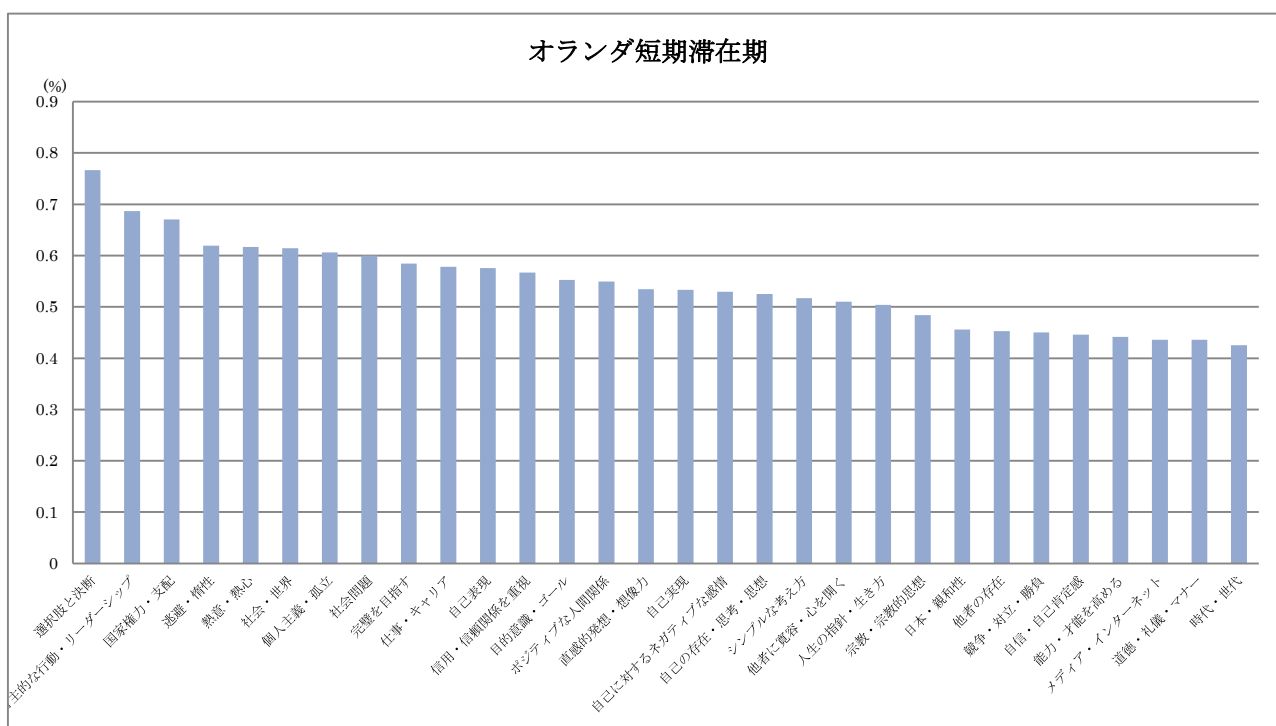


図 2.オランダ短期滞在期における第四カテゴリー頻出度数

図 2 から分かるのは、<選択と決断>、<自主的な行動・リーダーシップ>、<個人主義・孤立>、<完璧を目指す>、<目的意識・ゴール>、<自己実現>、<自己に対するネガティブな感情>、<自己の存在・思考・思想>、<人生の指針・生き方>、<自信・自己肯定感>、<能力・才能を高める>というカテゴリーが多数出現していることである。そこに見られるように、イギリス留学期にくらべて、他者との関係を意識するよりも自己への関心が多く見られる点が非常に興味深い。これは、イギリス留学期を経て「me」を取得することで形成された「I」が健全に構築された結果であると考えられる。

さらに、自我を構築する過程においては、取得した他者の態度に従順に従うというだけ

でなく、拒否・闘うというかたちで反作用を伴うことがある。Mead は、それについて「人間の共同体における態度は、服従することを拒否しているその人自身の態度であるかもしれないが、それは彼が共通の態度を取得するからである。・・・他者の態度を取得して自らの自我を適応させるか、それともそれと闘うかという問題である」(Mead 1995:238)と述べている。たとえば 9 月 4 日のログに見られる自我の形成過程には、闘うという仕方を用いた反作用の例が見られる。この日は、アムステルダムに住む日本人たちの集まりにお誘いをもらったときのことであった。オランダではマリファナが合法とされているが外国人である日本人がそれを堂々と吸う姿を間近で見て、その反作用としての自我が生まれる経過が見られる。

「・・・いろんな人いはるなあ。そしてみんなマリファナ吸ってる。マリファナ、タバコは絶対吸わないとここに宣言します。体の調子悪そうやし、何より臭い。・・・厳しいけど楽しんで快樂を得て、ふらふらしてるだけでは、ただの社会のお荷物やなど。何のために生きてるんやと。社会に対しての生産性がない。・・・私はそういう人になりたくない。自分の才能を活かして稼いでいい生活したいし、何かを生み出す人、社会に対して生産性のある人でいたい。・・・」(9月4日)

上記では、＜アムステルダムに住む日本人はみんなマリファナを吸う＞という一般的な他者の態度から「me」を取得して、その共同体の態度を拒否する反作用として「自分は吸わない」という「I」が構築されている。さらに、マリファナを吸う日本人にたいして組織化された社会的態度から個人のなかに「me」を獲得している様子も見られる。社会において生産的な活動をせず享樂のなかに過ごす人の態度を獲得し、さらにその人にたいして集団が取る厳しい態度をも取得しているのである。そうして、それらの態度を拒否する反作用として、＜社会にたいして何かを生み出す生産性のある人＞という「I」が発達したのだ。

このように服従にたいしての反抗というかたちで生まれた自我は必ずしも攻撃的な特性を持つわけではなく、「個人に自己主張の態度や、共同体にたいする献身の態度を与える」(Mead 1995:238)ことで出現する。現に、今回のシーンにおいても、＜マリファナを吸う人たち＞との対立は見られず、＜自分の才能を活かす＞、＜何かを生み出す＞、＜社会に対して生産性のある＞というキーワードにも見られるように、社会への献身の態度としての自我が現れていることが分かる。

再び図 2 に戻ると、上位には＜選択と決断＞、＜自主的な行動・リーダーシップ＞、＜個人主義・孤立＞、＜目的意識・ゴール＞というカテゴリが出現している。これらはリーダーシップや自主性、さらに自己統制・自己規範の発生と捉えることができる。もし Mead

のいうように「『I』は、自由、自発性の感覚を与える」(Mead 1995:219)のだとしたら、イギリス留学期を経て構築された「I」が、オランダ滞在期においてその特性を発揮しているだと考えられる。そこで、自発性と自由の感覚の出現について、まずは自発性についてログの一部を取り上げたい。

イギリスからオランダに移り、はじめはオランダ語の語学学校に通っていたものの、途中から学校を辞めて英語を自習するようになった。自身に必要な学習の優先順位は英語であると気づいたからである。先生や学校という教育の場での他者や集団の存在がないなかで1ヶ月半の期間でTOEIC900点を取得するという目標を自ら掲げ、その達成のために毎日図書館に通って勉強するようになったのである。特定の義務や役割がないなかでのこの行動には、ある種の自主性・主体性が見受けられるが、そのときの記録が以下である。

あと1ヶ月半で900点目指すのはかなり覚悟いるよ。それでもいいの？せいぜい今の私のレベルは700点ぐらい。これから200点あげるのはきついよ。間違いは許されへんレベルやし。完ぺきを求めていかなあかんねんで。覚えられへんとか言ってあきらめることも許されず、できたことをすべて頭にいれることが求められる。なんでTOEIC900点取りたいの？英語が活かせることを証明するため。就活で有利だから。この留学で身につけたことを形にしたい。でも今までふらふらしてたんだから、最後の追い込みだけで取れるとなめたあかん。死にものぐるいで勉強しなさいよ。弱音は吐くな。全部自分で決めたこと。これからの人生を考えたときに、今また中途半端にしたらこれからも一生中途半端な人生やと思いや。人生で最後の勉強しっかりできる時間、周りが応援して支えてくれてる人の気持ち。なにか自分の目標を最後までとりくんで達成すること、やり遂げること。900点もってます。結果は関係ない。過程で弱音を吐かずがんばれるか。最後まで(9月8日)

このログからは、下線部に<自主的な行動・リーダーシップ>カテゴリに該当するタグが見受けられる。このように自己実現にむけての姿勢はまさに自主性・自発性の現れだ。さらに、このログでもっとも興味深い点は、自身の設定する課題にたいして主体的な行動を見せる「I」にたいして、懐疑的な視点を持ち客観的な立場で自身に問いかける「me」が存在していることである。なぜ特定の集団社会との直接的な関わりが見当たらないにもかかわらず、「me」が存在しうるだろうか。それは、自身の経験からより大きな枠組みとしての集団社会の態度を取得しているからであるといえよう。なぜなら、「自我であるためには、人は共同体の成員であらねばならない」(Mead 1995:200)ため、われわれは自我を維持するために自身のなかにすでに経験として引き継いだ共同体・他者の態度を呼び起こしたと考

えられる。これは、Meadによれば<自己意識>とされ、「われわれが他者のなかに引き起こした態度の集合が、われわれ自身のなかで目覚めること」(Mead 1995:201)と定義される。このとき呼び起こされた<日本人><就活生><学生><留学生>という共同体の社会的態度は、自己意識において「I」と「me」の相互作用が繰り返され、自我を維持することに役立つ。

次に、前述した自由の感覚の発生について、そのメカニズムはどうなっているのだろうか。「me」にたいして反応する「I」は、「彼自身の経験のなかに現存しているが、彼らにたいする彼の反応は、新しい要因を含んでいる」(Mead 1995:219)とあるように、経験のなかにある態度にたいして新奇な要素を含んだかたちで他者の態度を刺激する。こうして生まれる「I」は「有機体の性格がその環境を決定」(Mead 1995:265)するため、自由な環境で経験を取得することによって、「I」はさらにその自由の性格を帯びるのである。

この「I」が与える自由の感覚は、オランダ短期滞在期に出現するカテゴリの<直感的発想・想像力>に価する。このカテゴリでは、<クリエイティブ>、<アイデア>、<インスピレーション>、<直感>、<好奇心>、<自由>などのタグが存在するが、これは三つのフェーズのなかでオランダ短期滞在期にもっとも出現する項目である。ログ中では、「自由な時間、豊かな収入、自分の好きな仕事、新しいクリエイティブで刺激的な人との出会い」(11月10日)、「クリエイティブになるには恥を捨てなあかん。私は美しいものが好き。音楽、自然、アート、ダンス、ショー。考えすぎはよくない！アイデアで生きよう！」(11月10日)、「現実的な思考も大切だけど、クリエイティブなアイデア、楽しい雰囲気の方を私は信じたい」(11月24日)などの表現として見られる。このように、他者の態度への反応として生まれる「I」は因習にならうのではなく新しい要因を含んで自己表現するのである。これが、「I」が自由の感覚を与える所以である。

さて、ここで再び図2に戻り、今度は<国家権力・支配>、<社会・世界>、<社会問題>、<仕事・キャリア>、<宗教・宗教的思想>、<日本・親和性>、<メディア・インターネット>、<時代・世代>というカテゴリの出現回数が高いことにも着目する。イギリス留学期に見られた社会集団の集团的態度は、この期間には特定の組織や集団に所属している機会が少なかったからか、社会・国家・宗教というようなより大きな枠組みとしての社会集団と自己の関係に思考を巡らせていることが分かるだろう。これは、ログではたとえば「私はどんな世界を望む？世界平和ってなに？どんな未来を想像する？・・・そしてそれを実現するために自分をささげること、献身」(10月16日)、「私が社会を、未来を、世界をつくる。発信者です。影響を与える人間になる」(10月16日)、「帰国後の就活、キャリア、人生のビジョンに明確な理想像をもち、確固たる自信をもってこれからの人生に取り組む」(12月2日)などに見られる、社会のなかでの自身のキャリア形成について思考

を巡らせているものが多い。また、イスラム女性にたいする性的暴行に言及した記録部分に付随して、「規則は必要なのか？信仰は心の問題。規則ではない。平等ではないムスリム社会」(12月1日)、「女性に対する差別。ジェンダー社会。彼らのなかではアッラーが生活の指針」(12月1日)というようにジェンダー社会や移民社会、宗教観念、差別・偏見などへの興味が広がっていることが分かる。そこから社会的態度としての「me」を取得した結果、「モロッコ人の様子今週、というか明日広場で観察しよう。若者の非行について興味ある」(12月1日)というように自発的な自我とその行動が生まれていることも分かる。このように私たちは、明確な社会集団に所属することはなくても、日々あらゆる社会集団の社会的態度を自己意識的に取得し、自我を形成しているのだ。それでは最後に、ヨーロッパバックパック期における第三カテゴリの頻出を表したグラフを以下参照する。

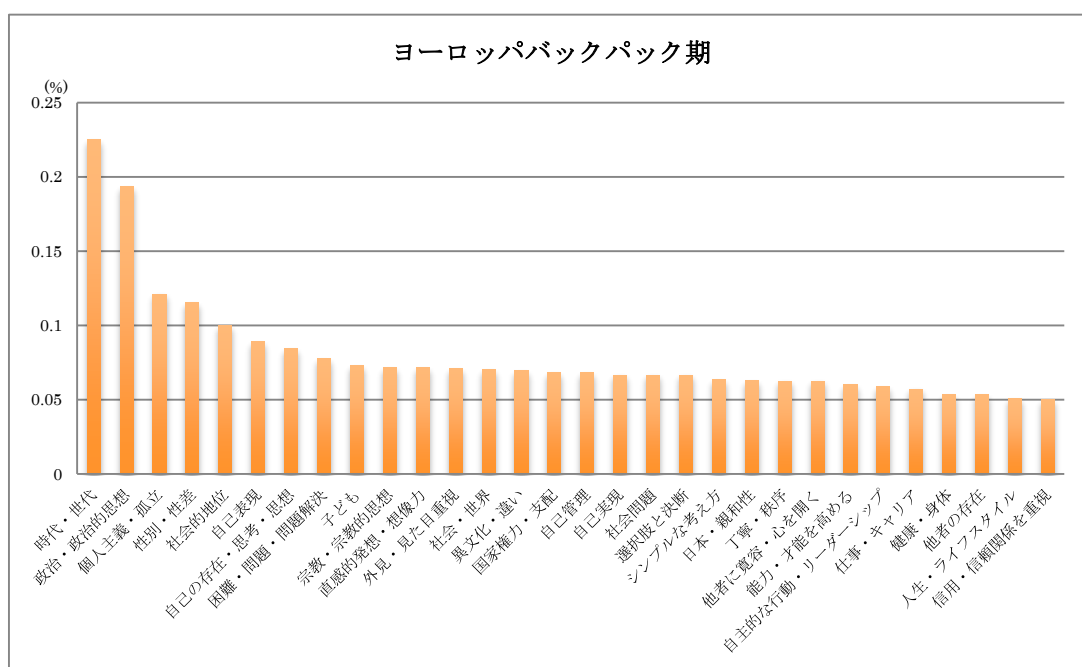


図 3. ヨーロッパバックパック期における第三カテゴリ頻出度数

図 3 からヨーロッパバックパック期には、オランダ短期滞在期にも見られた<時代・世代>、<宗教・宗教的思想>、<社会・世界>、<国家権力・支配>、<社会問題>というより大きな枠組みとしての社会と自己の関係に関するカテゴリが、<政治・政治的思想>、<性別・性差>、<社会的地位>というカテゴリも加わり、さらに関心が増していることを読み取ることができる。また、<個人主義・孤立>、<自己表現>、<自己の存在・思考・思想>、<直感的発想・想像力>というようなカテゴリが上位に上がっていることから、自己・自我にたいする意識がより高まっていることも分かる。このことから、イギリス留学期とくらべると大きく変遷したオランダ短期滞在期におけるカテゴリ頻出は、ヨ

ヨーロッパバックパック期においては、よりその傾向を強めて出現しているといえる。たとえば、12月13日にドイツ・ベルリンにいたときのログより、

「ベルリンの壁見てて思ったのは、人間は本質として自由を求めるといこと。表現の自由、言論の自由、選択の自由、思想の自由……そしてそれらは今ある。私たちは今手にしている。過去の人たちはそれが形式上認められていなかったが、自らの行動によって自由を得た。権力をつぶした。今現在の私たちはその自由を最大限に活かしているだろうか？自由を手にも関わらず、自分の頭のなかで勝手にリミットを設けていないだろうか？自由を奪うのも、得るのも自分の思考と行動次第。自由を得るには自己責任と自立心の強さも必要。そして、支配、抑圧、コントロールのあるところには必ず反動がくる。その関係は長く続かない。一方が我慢している状態で、もう一方が自己中心的な力を加えるところに愛はない。強そうに見えて実は脆い。なぜなら愛は強いから。最後には必ず愛が勝つから。バネのような関係」(12月13日)

というものがある。この頃には、特定の社会集団には所属せず、日ごとにバックパックで各国を旅していたため、特定の個人との関係は少なく、それは度数表を見ても明らかである。しかしながら、この期間も自身の経験から社会的態度を取得し、自我を形成していることが読み取れる。共同体としての人間の〈自由を求める〉という社会的態度から、「we」という共同体のなかでの「me」を取得しているのだ。そこには〈自由を得ようとしている〉という「me」が見出される。そうして、それに反作用するかたちで〈自由を得るために自己責任と自立心の強さをもつ〉という「I」が形成される相関関係が成り立つ。さらに、オランダ短期滞在期に比べると、この社会と自己との相互的なやりとりの回数が増えていることも興味深い。

しかしながら、ヨーロッパバックパック期はイギリス留学期、オランダ短期滞在期にくらべてその期間が約2週間と短かったこともあり、ログのデータ量は相対的に少ない。そのため、その点に関してはグラフを参照する際には考慮しなくてはならない。

4.2 ログデータのコレスpons分析結果とキャリア像形成に関する考察

この項では、各フェーズと第三カテゴリをコレスpons分析にかけた結果をもとに、筆者自身のキャリア像形成について考察したい。図4は、ログデータをコレスpons分析にかけたもので、各フェーズと第三カテゴリが座標に分布表示され、その相関関係を視覚的に捉えることができる。さらに、表示されている分布カテゴリをさらにグルーピングした

ものが図5である。以下、それらのグラフを参照したい。

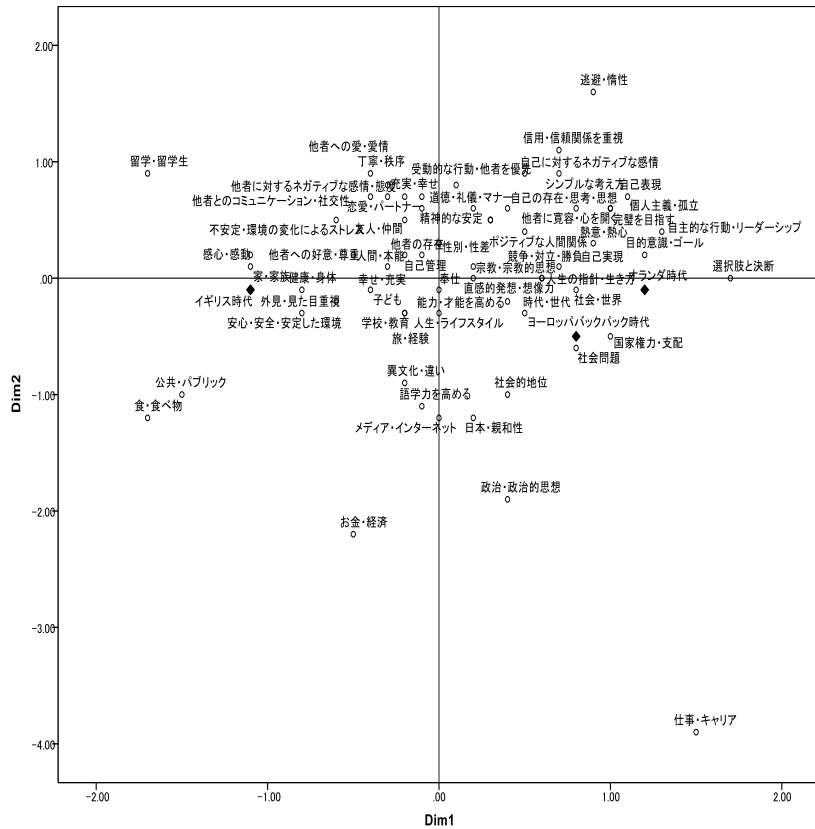


図4. 各フェーズと第三カテゴリのコレスポンス分析結果

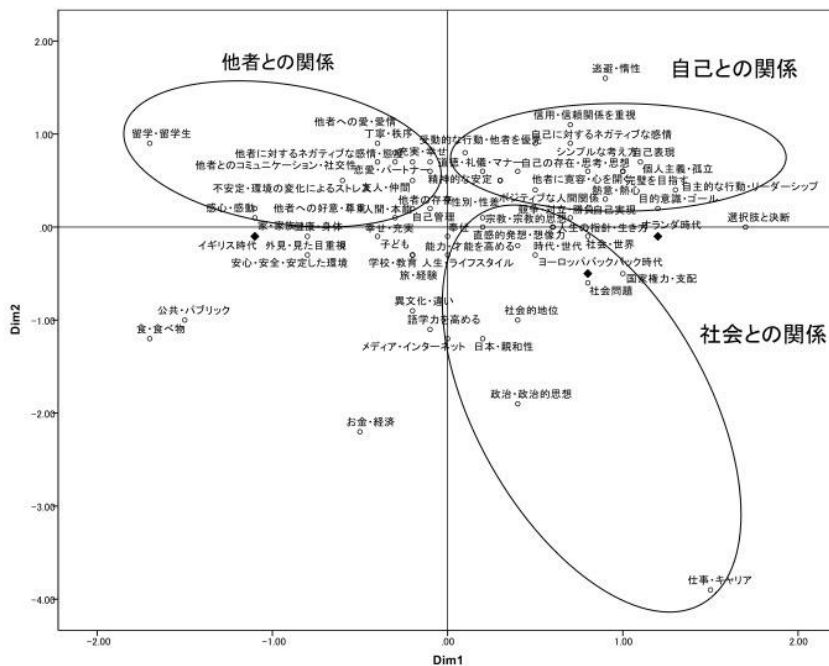


図5. 図4のグルーピング

上の図4・図5には、それぞれのフェーズの座標も含まれている。イギリス留学時代は(-1.1,-0.1)、オランダ短期滞在期は(1.2,-0.1)、ヨーロッパバックパック期は(0.8,-0.5)に見ることができる。それぞれのフェーズ座標の変遷は、X軸マイナス領域からX軸プラス領域へと移動し、その後ヨーロッパバックパック期にはX軸プラスからマイナスへと向かいながら、Y軸マイナス方向へと移動の軌跡を辿っている。

さらに、図5は図4で示されている各カテゴリ座標を大きく3つに分類して、さらにグルーピングを行ったものである。X軸マイナス、Y軸プラスの領域は、〈他者とのコミュニケーション・社交性〉、〈留学・留学生〉、〈友人・仲間〉、〈恋愛・パートナー〉、〈他者への愛・愛情〉、〈他者への好意・尊重〉、〈他者にたいするネガティブな感情・態度〉、〈他者の存在〉というカテゴリの散布が見られる。この領域はイギリス留学期の座標がもっとも近く、これは前項でも明らかになったように、この期間に他者の存在を強く意識し、一般的な他者の態度を個人のなかに獲得することで、「me」が筆者自身のなかに構築されているからである。

次に、X軸プラス、Y軸プラス領域では、〈個人主義・孤立〉、〈自己の存在・思考・思想〉、〈自主的な行動・リーダーシップ〉、〈目的意識・ゴール〉、〈自己表現〉というカテゴリの散布が見て取れる。ここには、オランダ短期滞在期の座標がもっとも接近しており、この期間にはイギリス留学期に筆者のなかに組織化された「me」にたいして「I」が反作用しているのである。「I」の表れの特徴として、自発性や自己表現が挙げられることから分かる。

最後に、ヨーロッパバックパック期の位置するX軸プラス、Y軸マイナスの領域では、〈宗教・宗教的発想〉、〈国家社会・支配〉、〈時代・世代〉、〈社会的地位〉、〈日本・親和性〉、〈政治・政治的思想〉、〈仕事・キャリア〉などのカテゴリの散布が見られ、筆者自身のなかに社会的集団の社会的態度が組織化されていることが分かる。この社会的態度の獲得は、「個人の自我の十全な発達の第二段階」(Mead 1995:195)とされており、イギリス留学期に取得した「me」にたいして、オランダ短期滞在期に反作用する「I」が健全に発達を遂げているプロセスなのである。このように、それぞれのフェーズをとおして、筆者自身の自我は、一般的な他者の態度を取得することで「me」の組織化を行い、その反作用をとおして「I」が生まれ、さらに共同体の社会的態度を取得することで自我を十全に発達させるという自我形成のプロセスを経ていることが分かった。

さて、図5に戻り、今回は〈仕事・キャリア〉カテゴリの分布について詳しく考察したいと思う。この〈仕事・キャリア〉の座標は(1.5,-3.9)であり、グルーピングでいうと社会との関係に位置する。ほかのカテゴリにくらべると数値が大きく、その座標の位置も特徴的だ。このことから、〈仕事・キャリア〉が自我との相関関係において大きな影響をあた

えていることが分かる。つづいて、以下、フェーズごとの日付とカテゴリをコレスポンス分析にかけたものを参照したい。



図 6. イギリス留学期における日付とカテゴリのコレスポンス分析

まず、図 6 はイギリス留学期における日付とカテゴリをコレスポンス分析にかけたものである。全体的に X 軸マイナスでの分布が多く、さらに X 軸マイナス、Y 軸プラス領域を中心にその分布は広がっている。ここでの<仕事・キャリア>カテゴリとの相互関係は比較的緩やかなもので、中心領域とは離れたところにカテゴリの座標も位置している。また、この頃に出てくる<仕事・キャリア>領域のカテゴリに価するログは、次のようである。「私は日本で企業に就職し、キャリアを積んでから海外で仕事をします。」(3月19日)、「本を出版」(6月8日)、「・インタビュアー・ライター、コラムニスト・オンライン雑誌出版」(8月18日)などが高い数値を記録している記述である。左記から、初期のころのキャリア像について読み取ることができる。

この頃は、まずは日本の企業に就職してキャリアを形成し、その後、自分のしたい仕事(ここで言えば、海外で仕事をすることやインタビュー、ライターなどの仕事)をするというキャリアを描いていることが分かる。前項でも考察したとおり、この時期には他者の存在を強く意識しており、他者の態度も筆者自身のなかに構築されている。つまり、この頃のキャリア像には、社会的態度にたいしての<一般企業に就職する>ということが<自分のしたい仕事をする>ということよりも強く反映されている様子が分かる。しかしながら、時間が経過するにつれて、自我が少しずつ発達し、<自分のしたい仕事>が多く出て

きている。次に、オランダ短期滞在期のコレスポンス分析を参照する。

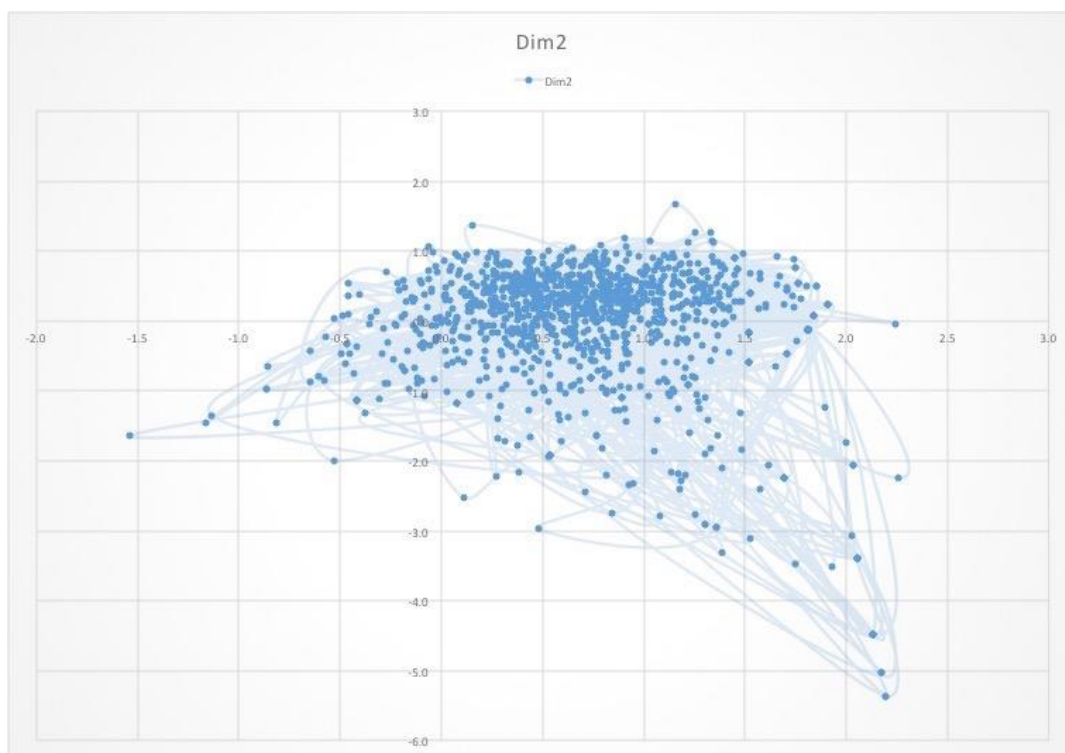


図 7. オランダ短期滞在期における日付とカテゴリのコレスポンス分析

イギリス留学期にくらべて、分布図全体が X 軸プラスへと推移していることが分かる。なかでも、X 軸プラス Y 軸プラスでの分布が特徴的で、そこを中心に凝縮するように分布している。さらに、イギリス留学期にくらべると、＜自己との関係＞領域に見られる「I」の発達に加えて、＜社会との関係＞を示す X 軸プラス Y 軸マイナス領域への散布も多く見られる。＜仕事・キャリア>カテゴリとの相関関係を見てみると、イギリス留学期にくらべて、その相関関係はかなり強いものになっていて、相互作用が大きく働いていることが読み取れる。それは、ログにも顕著に表れており、「・雑誌にて記事（コラム）を書いています。」（9月8日）、「・雑誌にてコラムのせる。」（10月25日）、「・イベント企画」（10月25日）、「・編集・出版の会社でインターンシップをしています。」（11月10日）、「・本を出版しています。」（11月15日）、「・インタビュアー兼ライターで雑誌にコラムを書いています。」（11月15日）、「・ライター、雑誌にコラム書いてます。」（11月23日）、「・雑誌に記事を書くライター」（11月24日）、「・本を出版」（11月24日）、「・出版、編集・大企業、外資、営業、貿易」（11月24日）、「・企画も向いている。イベントを作り上げる達成感」（12月4日）など＜仕事・キャリア>に関する記述が多数見られる。なぜなら、前項でも述べたとおり、この頃には「I」の発達が個人に自由の感覚を与えたことが反映され、「me」より

も「I」としての自我が発達したキャリア像が描かれているのである。このようなプロセスは、以下のように説明される。

われわれは人について、因習的な個人として語っている。彼の観念は、隣人のそれと全く同じである。彼は、その環境のもとに置かれた「me」以外のなにもものでもない。彼の適応は、いわば無意識に起きた僅かな適応でしかない。それとは対照的に、明確な人格をもち、有意味な差異をつくるような仕方で、組織化された態度に応答する人もいる。このような人間にとっては、「I」のほうが経験のなかでより重要な側面である(Mead 1995:246)

自我が形成されるうえでは、共同体の成員としての態度を個人のなかに組織化する必要があることは今までにも述べてきた。しかしながら、明確な「I」が発達した場合には、他の個人にたいして有意味な差異を生み出すことによって、態度に反作用することがある。それが、上のキャリア像に関するログにも見られるのではないだろうか。日本において、<就活生>という社会的集団から態度を取得し、個人のなかに組織化されたものの、筆者の場合は、経験のなかで「I」がより大きな存在感をもつことで、<一般企業に就職する>よりも<自分のしたい仕事をする>というキャリア像が発達したと考えられる。それでは、最後にヨーロッパバックパック期の散布図を見てみる。

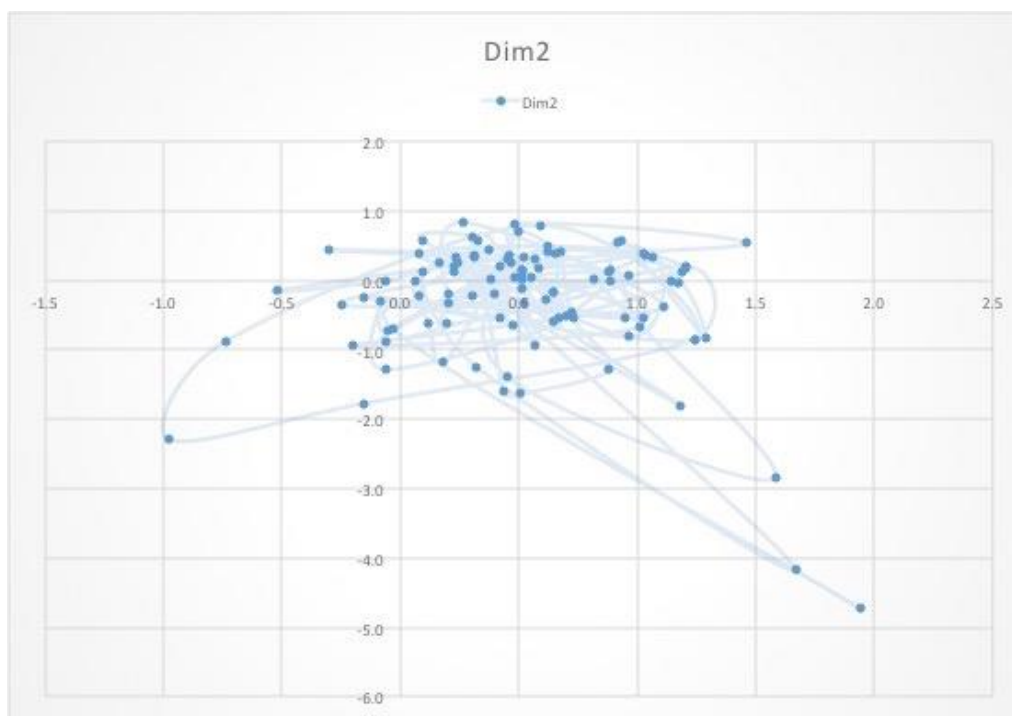


図 8. ヨーロッパバックパック期における日付とカテゴリのコレスポンス分析

前二期にくらべて数は少ないものの、X軸プラス領域を中心に散布しており、それぞれ相互作用していることが分かる。キャリア形成に関するログには、「レポーター、記者、ライター。I have different eyes.」(12月24日)、「私は人と会う仕事をしています。コラムニスト」(12月24日)というように、「I」としての自我が発達し、集団的態度よりも大きく反映され、それが確立していることがわかる。

このように、筆者自身の場合は、海外滞在中の自我の発達において、キャリア形成という点に他者・集団的他人の態度を個人のなかに組織化して、それに反作用するかたちでの「I」の発達がもっとも大きく現れていることが分かった。そして、最終的には<他人の態度>としての「me」よりも筆者自身の経験としての「I」が有意義なものとして自己表現のかたちで現れたのである。

5. おわりに

5.1 まとめと今後の課題

今回は、これまで述べてきたとおり、筆者自身の海外滞在中に自我がいかんして形成されるかという点に注目して Mead の社会的自我論をもとに研究をすすめてきた。そして、イギリス留学期・オランダ短期滞在期・ヨーロッパバックバック期の3つのフェーズに分けて、それらの期間での自我形成プロセスを辿ることで、それぞれの自我の発達に違いが見られた。

まず、イギリス留学期には、異文化というはじめての環境のなかでの生活において、<他人の存在>にたいする意識が強く現れ、筆者自身の自我は<他人の態度>の組織化によって現れたのである。また、そのなかでは他人の態度を獲得するプロセスと同じように、語学学校・ホストファミリーなど、所属する集団社会のもつ社会的態度の組織化によっても同じように「me」を取得した。そうして発達した「I」としての自我は、オランダ留学期において<自主的な行動・リーダーシップ>や<目的意識・ゴール>などのカテゴリに見られる自発性を発揮するかたちで現れたと考える。これは、オランダ短期滞在期には明確な所属集団はなかったものの、より拡大された社会集団としての態度を個人のなかに組織化することによって形作られていった。こうして発達した「I」としての自我は、筆者自身に自由な感覚を与え、アムステルダムという多文化共存社会がその促進要因となり、<他人の態度>に新しい要因をもたらすかたちで構築されたのである。このことは、ヨーロッパバックバック滞在期にはより顕著に現れ、自我発達の第二段階とされる社会集団の態度の組織化によって、さらに明確な「I」が現れるようになった。

海外滞在中には、このようなプロセスをもって発達した筆者の「I」としての自我だが、

これはキャリア形成の点において、もっとも大きな相互関係が見られることが判明した。もともと、海外に行くことを決めたのも自分の納得できる仕事とは何かという理由からであった。留学に行く前や海外滞在初期の頃は、いつか海外で働きたい、出版や編集にかかわる仕事に就きたいとは心のどこかで思っていたものの、それよりも一般社会のなかで常識とされる福利厚生や収入のよい企業に就職して、その後に自分のしたい仕事をするというキャリア像を描いていた。しかしながら、約10ヶ月の海外滞在を経て発達した筆者の「I」としての自我は、「me」としてのキャリア像よりも「I」としてのキャリア像が明確に現れるようになったのである。これは、留学のきっかけである目的が達成されたことにくわえて、現に帰国後から2年が経とうとしている今の筆者は「自分のしたい仕事ができるのであれば、ある程度生活できる収入さえあれば正規雇用や非正規雇用、世間体など関係なく、そちらを選択する」というキャリア像を持っていることから分かるように、さらに進化するかたちで明確な「I」が発達しているのである。

しかしながら、今回の研究ではデータとして扱ったログが海外滞在中のものだけであったため、期間前後でどのように変化したかという点においては、比較するデータがないために実証性が薄いことは念頭に置いて置かなければいけない。さらに、Meadは、

人間は自らを特定の環境に適応させるにつれて、以前とは異なる個人になる。しかし、異なった個人になるなかで、彼は自分が生活している共同体に影響を与える。それは、ごく僅かな影響かもしれないが、彼が自らを適応させた限りで、この適応は、彼が反応できる環境の型を変えていき、したがって世界は異なった世界になる。個人と個人が生活する共同体との間には、常に相互的な関係がある(Mead 1995:266)

という形成された自我が社会と相互作用をすることで共同体に影響を与えると述べているが、もし今後この研究をさらにすすめるとしたら、筆者自身のデータだけでなく、他者や集団社会に関してのデータも取ることができれば、その相互作用や個人が与えたかもしれない影響について考察できる興味深いものになるだろう。

今回の研究をとおして、筆者自身が興味をもっていた個人が接する社会変容における自我の発達は自身も驚くほどに、ログのなかに顕著に表れていた。必ずしも海外に行くことが自我の発達につながるとは限らないが、今まで過ごしてきた単一民族国家である日本を離れての異文化での生活は、他者や社会集団との相互関係をとおして筆者に新たな自我をもたらした。筆者が留学に行ったきっかけは、キャリア選択であったが、「I」を本当の自我とするのであれば、このような生の体験が筆者に自我の発達を促し、明確なキャリア像を描くことにつながった。そう考えれば、冒頭にでてきた就活における紙やパソコンと向き

合って行う自己分析よりも新しい他者との出会いや社会との関わりによって本当の自分を見つけられると考えられないだろうか。もし、筆者と同じようにキャリア選択における「I」がまだ見いだせていない者がいるとしたら、ぜひその自我を発達させる経験を得ることができるほうを積極的に選択してほしいと切に願う。なぜなら、自我とは、今まで自分が接してきた他者や社会とは違うそれらと接することによって、さらなる発達を遂げるのだから。

参考文献

- Mead, G.H., 1934, *Mind, Self, and Society: from the Standpoint of a Social Behaviorist*, Chicago: University of Chicago Press (1995, 河村望訳『デューイ=ミード著作集 6 精神・自我・社会』人間の科学社.)
- Erikson, E.H., 1959, *Identity and Life Cycle*, New York: International Universities Press (1973, 小此木啓吾訳『自我同一性』誠心書房.)
- Berger, P.L., Berger, B. and Kellner, 1967, *The Social Construction of Reality-A Treatise in the Sociology of Knowledge*: New York: Anchor Books (1977, 山口俊郎訳『日常世界の構成』新曜社.)
- 村澤和多里, 2005, “E.H.エリクソンと P.L.バーガーによるアイデンティティ論の検討 : 青年期の理解と援助にむけて”A Probe into "Identity" of Erikson's and Berger's Theory.,” 作新学院大学人間文化学部紀要, 3, (1/24, http://ci.nii.ac.jp/els/110004628315.pdf?id=ART0007340582&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1453664655&cp=)
- Office for National Statistics, 2012, “Census 2011 result shows increase in population of the South East”(Retrieved December 24, 2015, <http://www.ons.gov.uk/ons/rel/mro/news-release/census-2011-result-shows-increase-in-population-of-the-south-east/census-southeastnr0712.html>)
- Statistics Netherlands, 2015, “Population dynamics; birth, death and migration per region”(Retrieved December 24, 2015, [http://statline.cbs.nl/Statweb/publication/?DM=SLEN&PA=37259eng&D1=0-1%2c3%2c8-9%2c14%2c16%2c21-22%2c24&D2=0&D3=39%2c66%2c88%2c137&D4=0%2c10%2c20%2c30%2c40%2c\(1-1\)-1&LA=EN&VW=T](http://statline.cbs.nl/Statweb/publication/?DM=SLEN&PA=37259eng&D1=0-1%2c3%2c8-9%2c14%2c16%2c21-22%2c24&D2=0&D3=39%2c66%2c88%2c137&D4=0%2c10%2c20%2c30%2c40%2c(1-1)-1&LA=EN&VW=T))
- Statistics Netherlands, 2001, “Two thirds of population growth consists of people with a foreign background”(Retrieved December 24, 2015, <http://www.cbs.nl/NR/rdonlyres/509D0EA4-6CE1-4B1D-BB20-750DC45A8B7B/0/pb01e216.pdf>)